

復興小学校

復興小学校とは、大正12年(1923)9月1日に起こった関東大震災により焼失や倒壊の被害を受けた小学校のうち、東京市が不燃建築で再建した小学校を指します。

震災の被害は市立学校だけでも190校、罹災生徒は約16万人にも及びました。甚大な被害を出した一因には、当時の校舎のほとんどが木造だったことがあります。そのため、復興小学校は鉄筋コンクリート造で建設され、防火・耐震のための厳格な基準が設けられました。

震災後から昭和6年(1931)までに再建された復興小学校は、117校。うち52校には、隣接して小公園も整備されました。小公園は生徒の遊び場としてだけでなく、非常時には避難場所とすることを想定して設けられたものです。

児童の良好な教育環境を整えることが重視されたのも、復興小学校の特徴です。校舎に当時流行のデザインが採用されたのはもちろん、理科・手工(工作)・唱歌・裁縫等の特別教室が標準的に設けられたり、蒸気暖房や水洗便所等の設備が充実されるなど、最先端の技術が注がれました。

第二次世界大戦の戦禍、廃校、老朽化等による取り壊しや建て替えにより、現在残された復興小学校は、わずか15校となりました(部分保存・復原等含む)。ここでは、かつての復興小学校の姿や授業風景とあわせて、現在の復興小学校の姿をピックアップしてご紹介します。

参考文献:東京市編『東京市教育復興誌』1930/東京市役所編『東京市教育施設復興図集』1932/台東区教育委員会生涯学習課文化財担当編『台東区の復興小学校』2017/藤岡洋保監修 日色真帆・多羅尾直子他著『明石小学校の建築』東洋書店、2012/復興小学校研究会編『図面で見える復興小学校』2014

展示使用写真出典:東京市編『東京市教育復興誌』1930/東京市役所編『東京市教育施設復興図集』1932